

江北の四季

令和2年

11月15日

第33号



○第五十六候、立冬、次候、地始凍(ちはじめてこおる)。

大地が初めて凍る時期です。霜は空気中の水分が0℃以下に冷えた地表や植物の表面で凍ったものですが、霜柱は地中の水分が凍ってできた氷の柱です。まず水分を含んだ表面の土が冷気で冷やされて凍り、次に地中の水分が毛細管現象によって地表に吸い上げられ、徐々に凍結して柱状に成長します。したがって、霜柱は下の方から押し出されるように伸びていきます。

霜柱ができるにはまだ早い時期ですが、もみじが散ってさらに朝方の冷え込みが厳しくなってくると、冬到来、霜柱が見られるようになります。紅葉も例年より二週間ほど早く、今が見頃で、来週にはもみじのじゅうたんとなるかもしれません。小春日和の日はガーデニングにはもってこいの日ではありますが、ときには手を休めて、晩秋を堪能したいものです。見渡せば花ももみじもなかりけり、となる前に。



下垂した小菊 向こうには水仙の葉

形見とて何かのこきむ 春は花
山ほととぎす 秋はもみぢ葉
裏を見せ 表を見せて 散るもみじ
どちらも良寛さんの言葉です。なんとなく直な心を持っておられるのでしょうか。そんな域に、たとい一時でもいられたらと思いますが……。

○秋深き隣は何をする人ぞ

1694.9.29

秋は寂寥せきりようを感じる季節です。誰も居ない暗い我が家に帰ってきたときに、隣家の明かりがついているとほのぼのとした温かみを感じます。「隣は何をする人ぞ」には、そんなぬくもりを感じます。しかしながら、芭蕉は、この句をつくる一週間程前には

この道や行く人なしに秋の暮

1694.9.23

を詠よんでいます。そして、この「隣は何をする人ぞ」の句を詠んだ翌日より寝込み、

旅に病んで夢は枯野をかけ廻る

1694.10.9

という句を残して、10.12に亡くなっています。芭蕉はどういう思いで、隣は何をする人ぞ、と詠んだのでしょうか。

芭蕉の紀行文『おくの細道』の冒頭には「月日は百代の過客かかく(終おひわることのない旅をする旅人のようなもの)にして、行きかふ年もまた旅人(のようなもの)なり、舟の上に生涯を浮かべ馬の口とらえて老をむかふる者は、日日旅にして旅

を栖すかどす。古人も多く旅に死せるあり」で始まる有名な言葉があります。旅に死す覚悟で徘徊の道を歩んだ芭蕉であればこそ、隣は何をする人ぞ、には温かいものがあるように思えます。

芭蕉ほどの覚悟はありませんが、花の道も同じようなものなのでしょうか。道を進むのはなかなかで上達も一向にせず、もうやめようかと思うときもありませんが、花展で皆さんの花を見てみると、隣は何をする人ぞ、と、嬉しく楽しい気持ちになり、また励まされもして、前を向いて歩けるのかもしれない。



池坊近江湖陽会花展 令和2.11.7~8



ツワブキが満開



また一種生けに

芭蕉は俳句だけでなくいい言葉も残してきています。花をする者にとっても意味深い言葉です。

時々氣を転じ、日々に情をあらたむ

『笈おひのこぶみ小文』(紀行文)

古人の跡をもとめず、

古人の求めたる所きよりくりへつをもとめよ

『許きよりくりへつ六離別の詞』(惜別の書)

不易流行

不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず

(不変の真理を知らなければ基礎が確立せず、変化を知らなければ新たな進展がない)

蕉風俳諧の理念



①ヘタの掃除



②専用の道具で皮むき



③ひもを付けてぶら下げます

○季の食、その二

つりんぼです。干し柿や吊るし柿のことを意味する湖北地方の方言です。子供の頃は富有柿と共に渋柿も庭や畑の隅に植えられていました。多いときはてご(稲わらで編んだ大きな入れ物)に一杯くらいあり、軒下に吊り下げた風景は壮観でした。残念ながら近辺では宅地開発が進み、我が家の柿の木もなくなりました。嬉しいことに知人から渋柿のお裾分けをいただいたので、早速玄関先にぶら下げました。昔は、シユロの木の葉を裂いて紐代わりにしていましたが、今はビニールのひもで仕上げました。数日後、褐色が濃くなり柔らかくなって来ると揉み頃となります。二日に一回ほど手で揉むと、中身が柔らかくなり甘みも増します。十日ほどすると高級お茶の供どもになります。く♪



ヤブコウジ
(藪柑子) 左も
(別名十両)



センリョウには鳥よけに網をかけてしまいました

○今年は紅葉が早いですが、正月用の実物も南天を始めすでに赤く色づいています。これらには正月の縁起物にふさわしい名前がついています。写真以外にも百両(唐カラタチバナ)や一両(蟻アリドウシ)もあります。我が家の庭にアリドウシがあれば「千両、万両、有り通し」になるのですが。



マンリョウ(万両)



センリョウ(千両)

